



国民の森林・国有林

第2回国有林材供給調整 検討委員会を開催する

9月19日に、本年度第2回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しない」との検討結果となりました。各委員からの主な意見は次のとおりです。

○製紙業界の動向としては、古紙の中国での需要が旺盛（輸出が増加）となっており古紙の高騰等により配合率を減らしている状況。そのため国産木材チップの増産の要望がある。

○パイオマス用資材は集荷量も多くどこでも引っぱりだこだが、製紙用は集荷量も少なく集まりづらい状況。

○木材需要のバロメーターとなる住宅着工件数は、今年は少し落ちるかなと感じている。



座長を務める遠藤日雄氏

合板の動きについては、九州は他の地域に比較して良かったが、ここへきて少しペースダウンしている。お客様からの強い要望も少なくなってきた。

○原木については、特に市場への出材が少なく集荷がうまくいかず不足感が強い状況。

九州においてはB材の需要が多いが、今年の暑さ、台風、雨などの影響によりスギ、ヒノキ共に不足しており、価格も含め秋需に対する不安を持っている。

○西日本豪雨の影響で山陽線のJR貨物が止まっているため、九州からの関西、関東方面の運搬がタイトとなり、利便性の高いフェリー輸送を含め、輸送手段の確保に影響がでている。

また、トラックについては過積載問題も含め、今後流通量を確保していくためにどのようにしていくべきか今すぐ考えなければならぬ。

○伐採現場の奥地化や人手不足により素材の出材量が減ってきているのではないかと。

山元からの直送が増え、特に柱適材や中目材の市場への出材が減ってきていることから、（素材の調達を）市売りに頼る中小の製材工場は危機感を募らせている。

○豪雨等による市場への出材が少ない状況が去年より長引いている気がするが、工場への山元直送が増えている状況があり、災害や天候のみが原因で市場への出材が遅れているのではないよう気がする。

等による膨大な素材の需要の拡大に素材生産側が対応していけるのか不安。

○宮崎県ではここ数年で素材生産量を膨大に増やしてきたが、ここにきて少し疲れが出てきた感じがする。

誤伐・違法伐採の問題もあり、簡単には国有林には手を出せなくなっている。

森林環境税を財源とする主伐・再造林を進めていくためには環境に優しい作業方法を考えていかないと一般の方々の理解は得られないのではないかと。

○今年の暑さは異常で素材生産の現場でも日中の作業は避けるなど、影響がでた。

B材の需要が非常に多く、価格もA材とB材の差がほとんど無くなり、時には逆転することもある。

林業の担い手不足が深刻で、素材生産も人材不足があるが、造林も人がいないため、再造林を確実に行うためには、再造林が可能な範囲で主伐の量（面積）を考えていかななくてはならないような状況がある。

※本検討委員会は、九州森林管理局HPのキーワード「第2回国有林材供給調整検討委員会」からご覧いただけます。

（担当：地域木材情報分析官）

今後、九州各地での工場新設

特に九州ではB材の需要が高く、またA材との価格差も少ないため山元で細かい仕分けをせずにA材、B材をひと括りにして直送している状況も見られる。



検討委員会の様子

ナイスストライ事業で国有林の職場を体験 中学2年生を職場体験学習で受入

当局では、9月11日から13日にかけて熊本市立北部中学校及び井芹中学校からの依頼を受け、「ナイスストライ事業」(注1)による中学2年生6人を受け入れ、国有林及び九州森林管理局の業務について職場体験学習を行いました。



国有林ってどんな職場？

今回の職場体験では、初日に総務課篠村和希課長補佐から国有林及び当局の業務内容の説明を受けた後、GPSの使い方について、企画調整課村上國男企画官と原田美千子情報管理係長が説明及び実習を行い、その外に広報業務について体験学習しました。

2日目は、熊本森林管理署管内の大野国有林において、前日

習ったGPSを使って境界標の確認を行うとともに、林野巡視や自然観察などを体験しました。生徒たちは、GPSを使って境界標の探索、その性能に驚くとともに、日頃森林に親しむ機会が無いということで、汗まみれになりながら林内を歩き、森林・自然学習を体験することができました。

3日目は、樹木の高さ大きさを測る方法等を学習体験した後、3日間で学習したことをまとめ



GPSって、すごい！

る作業を行いました。原稿作成に四苦八苦していましたが、なんとか「広報誌ナイスストライ」を作成し、3日間の職場体験学習を終了しました。



みんなで境界標を探索

後日届いたお礼状には「当初、林業は精密機器とは無縁と思っていたが、GPSを使用しているなど、間違った考えであった」「職場で働く人達はいやな顔せず、いつも笑顔で接していただいた」「職場体験から将来の事を考えて勉強をがんばりたい」などのコメントがあり、貴重な体験を提供できた職場体験学習となりました。

(注1)「ナイスストライ事業」とは、熊本市教育委員会が中学2年生の体験学習として実施するもので、実際の職場で学習する体験のない生徒たちに、働くことの意味や役割を理解し、望ましい職業観・勤務観を育成することなどを目的に行われている事業です。(担当＝総務課)



熱心に受講する職員

9月21日、局大会議室において、健康管理医である表参道吉田病院総院長の吉田仁爾(ひとじ)先生を講師に迎え、「たばこの恐さを知ろう」と題した衛生講話を開き、多くの職員が参加しました。

先の国会で「健康増進法の一部改正」が成立し、来年夏にはこの庁舎も含め、官公庁は全面禁煙になる旨の説明がありました。次に、喫煙者本人への健康への影響については、がんやが



吉田健康管理医による講話

ん以外の病気のリスクが高いこと、死亡者数が断トツに喫煙者が多い(12万9千人)こと、喫煙によるメタボリックシンドロームの発症リスクや、非喫煙者と1日に喫煙する本数の因果関係についてわかりやすく説明されました。次に受動喫煙が健康に及ぼす影響について、日本では年間1万5千人が死亡している現状について説明がありました。

最後に、禁煙治療について説明されたあと、「たばこをやめるために治療などの支援制度があるが、なによりも一番大事なのは本人の強い意思」と締めくくられ、多くの職員が耳を傾けていました。(担当＝総務課)

たばこの恐さを知ろう 健康管理医による衛生講話を実施する

4者合同による菊池溪谷の安全点検を実施

【熊本森林管理署】 菊池溪谷を快適に楽しんで頂くため、これまで開園前、ゴールデンウィーク前、夏休み前等に安全点検を実施していますが、8月下旬に台風等により倒木が見られたことや秋の紅葉シーズンを控えて8月27日に関係機関（熊本県北広域本部、菊池市、菊池溪谷を美しくする保護管理協議会及び熊本森林管理署）の合同による枯損木や枝条の落下、落石等のおそれの有無、施設の腐朽状況、注意標識類の整備状況等について緊急の安全点検を行いました。



安全点検の打合せをする参加者一同

安全点検は、菊池溪谷入口、九州自然歩道、広河原、菊池溪

谷入口までの約2キロメートルを参加者全員で行い、枯損木の除去や注意標識類の設置など各機関が分担して速やかに整備することとしました。

熊本地震から約2年振りに開園した菊池溪谷、入谷者も順調に推移している中で、これから入谷者の最も多い紅葉時期を迎えることから、引き続き関係機関の連携を図りつつ、安全で楽しい菊池溪谷を目指すこととされています。

さつま町との森林・林業意見交換会を実施

【北薩森林管理署】 8月30日に当署会議室において、ケーススタディ地区のキックオフ会として北薩地域振興局及びさつま町林務担当者と森林・林業の現状及び平成31年度樹立の市町村森林整備計画に対して意見交換を行いました。

会議は、鹿児島県北薩地域振興局から森林計画制度の概要、さつま町からは町内の林業・林産業の現状について説明され、当署からは、他署におけるケーススタディ地区の取組概要、九州の木材需要状況を紹介し意見交換が始まりました。

意見交換では、森林所有者の経営意欲が低下し、再造林率も低迷していることや、林業への

新規就業者が依然として少なく、特に、造林関係の事業者が少ないことなどが問題提起されました。



意見交換会の様子

今後の進め方としては、検討課題を抽出し、具体的な取組方法や日程を決めていくこととし、事案によっては、関係事業者も交えて意見交換を行っていくこととしました。

最後に、平成31年度から始まる森林環境譲与税の配布や森林経営管理法の施行を見据えて、より充実した市町村森林整備計画にしていくことを確認し、キックオフ会を終了しました。

シオジ原生林で森林教室を開催する

【大分西部森林管理署】 9月5

日、日田市前津江町の権現岳国有林で、地元の日田市立前津江小学校と「水の姉妹校」である福岡市立堅粕小学校の児童・先生・父兄計約120名が参加して、森林教室を行いました。

森林教室は、筑後川の水源地域と下流の消費地に位置する両校から、社会生活における「水」の役割等を学ぶため、当署に対して開催の要請があったもので



森林の保水力と役割を説明する職員

当日は当署から9名の職員が参加し、午前中は6年生31名を対象にシオジの原生林として保存している国有林をフィールドとして、森林の保水力や役割等について、教材を使って説明を行いました。その後、子供たちはシオジの大径材に触れ木のパワーをもらい、源流まで足を運び水に触れ「すごく冷たい」と感動した様子でした。

午後は、1～6年生を対象に、



シオジ大木に触れる子供たち

「森林の役割に関する紙芝居」、「木の名前当てクイズ」、「種の模型飛ばし」を実施しました。子供たちは、「森林ってすごい!、こんな役割もあるんだ!」といった感想を聞かせてくれ、クイズ・種飛ばしは先生・保護者も夢中になる場面も見られ、質問も多く飛び交い予定時間をオーバーするほどの盛況でした。

今回の森林教室を通じて、特に都市部の児童にも森林の働きと大切さを理解してもらおうことができました。この成果を、今後の業務運営にも反映していきたいと考えています。

日田市小野公民館で森林の再生について意見交換会を実施する

【大分西部森林管理署】 9月6日、日田市小野公民館で、公民館による「小野地区まちづくり講演会」が開催され、益田健太

大分西部森林管理署長が、公民館から頂いた「スギやヒノキの荒廃森林を健全な森林に再生するには」というテーマで講演を行うとともに、これからの森林・林業のあり方について、地域住民の方々と意見交換を行いました。

同公民館がある日田市小野地区は、日田市の北西部に位置し、日田杉の美林が育ちホタルの生息する谷川に沿って僅かに耕地が開けた山村で、林業・農業などで生計が営まれてきました。梨の栽培が盛んなほか、最上流部の小鹿田・血山は陶芸の里として有名ですが、昨年7月の九州北部豪雨により大規模な山腹崩壊が起こり、消防団員の方が亡くなられたほか、道路の寸断、河道閉塞の発生等により数日間にわたり孤立し、土地や家屋にも甚大な被害を受け現在も復旧工事が進められています。

そのような中、災害を契機として、森林や林業のあり方について改めて考えてみたいとの思いから、公民館から、森林・林業に関する地域の関係官公署として、当署に講演の依頼を頂いたもので、当署としても、災害発生時の状況や現在の森林に対する思い等を地域の方から直接伺える貴重な機会と捉え、また、山崩れや流木被害の原因として、植栽樹種や森林管理に言及する

報道等にも接していたことから、学識経験者による調査結果等をお伝えしながら、これからの森林・林業のあり方に関する意見を交換させて頂くこととしました。



公民館にて意見交換会の様子

当日は、午後7時から地域の方々約50名が集まり、益田署長から、九州北部豪雨の概況や林野庁の対応、報道状況、学識経験者による災害現場の調査結果と原因等に関する見解、山地災害防止キャンペーン、日本の森林の資源の充実過程等を紹介しました。

参加者の方々からは、発災当時の状況や、水田にすき込む堆肥の製造のために草を刈る場として生活に密接に関わっていた

地域の山や、今回の崩壊地に残る広葉樹が生立する一角の来歴、植栽樹種の選定に関する先人からの言い伝えなどを教えて頂きました。

また、森林の多様化を図っていくことが必要であり、国有林がその役割を果たすことを期待するご意見や、どのような森づくりをすれば災害に強い山にすることができるとか、研究機関も持っている国が、しっかりとした方針を示して頂いてもらいたい、とのご意見を頂きました。

現在も、校舎を別の学校に間借りして授業を行っている地元の小野小学校からは、校長先生が参加され、児童がこれから森林・林業を学んでいくに当たって教材となるような資料の紹介・提供のご依頼を頂きました。

今回のご依頼を通じて、地域での森林管理署の存在感を確認することができ、今後も、地域との様々な場面での連携を図りながら「現場の声を聞く」取組を進めていきたいと考えています。

日南市ケーススタディ地区で現地検討会を開催する

【宮崎南部森林管理署】平成30年9月6日に、日南市の森林整備計画画樹立支援の一環として、宮崎県、日南市、南那珂森林組

合と地域課題の再確認のため、国有林及び国有林で現地検討会を開催しました。



エリートツリー成長試験地を視察

当日は、国有林の伐採跡地、国有林の秋下刈りの箇所やエリートツリーの成長試験林などを視察し地域課題でもある主伐後の再造林を如何に確実に行っていくか、そのためにどのような新たな技術を導入して造林事業の省力化・低コスト化を目指すか白熱した意見交換になりました。検討会のなかで、日南市の職



署内に帰り「ふりかえり」を行う

員からは、国有林と森林組合が取り組んでいる植付時の防草シート設置やエリートツリーによる下刈り回数の削減の取り組みの状況、10～11月に下刈りを実施する秋下刈りなど新しい取り組みや技術開発に対して早く国有林でも取り入れたい等の意見がありました。

当署は、今後とも宮崎県、森林組合とも連携し日南市の森林整備計画が充実したものであるよう支援を続けていきます。

国有林関係者の依頼を受けて森林技術の情報交換を実施する

【宮崎北部森林管理署・森林技術・支援センター】

日向市及び耳川広域森林組合から、造林のコスト高の原因となっているシカネットについて、様々なシカネットの張り方や製品について試験をしている国有林の実証試験地を見せてほしいと当署に依頼があり、9月6日、署の職員も含め合同で視察に行きました。

垂直、寝かせ、斜め、スカート付き等、様々なシカネットについて、メリットとデメリットを森林技術・支援センターの古川副所長をはじめとする職員から説明を受け、参加者からの質問により、活発な質疑応答となりました。



シカネットを説明する古川副所長

また、コストの削減については、シカ被害の対策だけでなく、国有林が取り組んでいる大苗や中苗についても説明し、民有林の関係者と一緒に造林の低コスト化に向けた取組をさらに進めて行く必要があることを確認しました。

森林GIS伝達研修とICT林業の勉強会を開催する

【長崎森林管理署】林業の成長産業化を進めるためには、林業の生産性の向上や新たな木材需要への対応が必要となってきました。このため9月11日、当署会議室において森林GIS伝達研修とICT(情報通信技術)林業の一つである航空レーザー計測技術の勉強会を開催しました。森林GISの伝達研修では、永野達也地域技術官を講師に森林GISの操作について、収穫

航空レーザー計測の方法



調査の区域を区画する場合に頂点を追加し編集できる機能等のバージョンアップした機能を中心に解りやすく丁寧に説明され、現場での業務がより効率的になることを職員一同確認した有意義な研修となりました。航空レーザー計測技術の勉強会には長崎県東振興局職員も参加し、講師のアジア航測(株)総括技師長の矢部三雄氏(元東北森林管理局長)を招いて行い

アジア航測(株)作成勉強会資料より引用

計測を五島・対馬地域で実施し、国有林も含めて計測してあることから、このデータを利用して林小班毎の材積や既設路網を把握し新設林道・作業道等の検討ができる。この期待を待っているところです。

近年様々な分野で活用されている航空レーザー計測の原理や方法について解りやすく説明がされ、計測で得られたデータを解析すれば人工林の樹種、本数、樹高、材積等が推定できることや森林の地形を解析すれば、正確な森林基本図、赤色立体図、治山施設現況図等が作成できるとの解説がありました。また、長崎県では航空レーザー

森林保護員による保全活動がスタートする

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】9月11日、大分県九重町の牧の戸峠において、平成30年度後期の森林保護員に辞令を交付し、保全活動の出発式を開催しました。

大分森林管理署から6名、大分西部森林管理署から4名を森林保護員に任命して、大船山(1786メートル)、久住山(1787メートル)など標高1700メートルを超える「くじゅう山地域」の国有林を対象として11月30日まで保全活動を行います。

この日、任命を受けた森林保護員の皆さんは、出発式会場周辺で準備したチラシを登山者へ配布し、貴重な高山植物の保護やゴミの持ち帰り等、利用マナーアップの協力を呼びかけました。



保全活動出発式の様子

今後、保全活動の期間内には、「入込者の状況把握」、「登山道の危険箇所把握」と入込者への注意喚起」及び「登山道沿いに立入規制のロープ柵の設置」などを行うこととしています。これから、くじゅう連山は秋から冬へと移り変わる季節を迎えます。紅葉の時期は、山肌一面が赤黄に染まり登山者の目を楽しませてくれます。登山者一人一人が満足していただけるように保全活動の充実に取り組めます。



登山者にチラシ配付

請負事業体等参加による安全会議を開催する

【大隅森林管理署】9月11日、当署会議室において当署管内の生産関係の受注事業体及び立木販売買受者を対象に「緊急安全会議」を開催しました。

これは、当署発注の請負事業体において、災害（休業4日以上）が8月20日に発生したことを受け、労働災害の未然防止を図るため開催したものです。

開催に当たって井上智晴大隅森林管理署長から安全会議の趣旨説明と事業最盛期となり基本動作の徹底など安全作業のお願いを含めた挨拶。江藤幸二次長から今回の災害内容、平成30年度の九州森林管理局請負事業体等の災害事例、かかり木処理の注意事項、ヒューマンエラーや安全管理と安全意识等について



安全会議の趣旨を説明する井上署長

説明しました。

請負事業体等からは事故の当事者社長から今回の災害を教訓とした今後の会社の安全への取組と決意を表した意見などが出され、当署と請負事業体等が気持ちを一つにして、労働災害の撲滅に取組ことを再確認して会議を終了しました。

モーターカーの実技訓練を開催する

【屋久島森林管理署】当署では、昨年8月に熊本毛地区消防組合及び屋久島警察署の三者で「山岳遭難事故発生時の救助捜索活動に関する協定」を締結し、当署が対応できない場合でも当署のモーターカーを警察・消防に貸し出して迅速な救助を行えるようにしています。

昨年度までの救助要請は、29年度は6件、28年度は8件あり、職員が対応していましたが、本年度はこれまで3件の救助要請に対して全て分遣所職員が運転して救助にあたっています。

このような中、分遣所職員の中には免許を取得してから運転していない者もいることから、本番での迅速な救助に備えて定期的な運転の実技訓練を、9月11日に分遣所職員3人を対象にして開催しました。

当日は屋久島らしく雨天での

訓練となりましたが、岩本清文次長と川野等森林整備官の指導のもと、基本的なエンジンのかけ方、登山者と離合する時の注意点、脱線のおそれのあるポイントのチェックなどの実技訓練を実施しました。

これから気候も涼しくなり秋山登山シーズンを迎えますが、当署としては引き続き警察・消防と連携して山岳遭難事故発生時には迅速な救助ができるよう対応していく考えです。



レールポイントのチェック



運転実技の訓練

宮崎海上保安部長より講演いただく

【宮崎南部森林管理署】9月12日、当署会議室において、宮崎県内の海の安全を守っている小野和哉宮崎海上保安部長にその取り組みについて講演を行っていただきました。



講演いただく小野部長

海上保安部が行っている業務として、一般的に知られている密輸・密航、密漁等の海の警察業務、映画「海猿」に代表されるような船舶の衝突・転覆、海浜事故から人命や財産を守る救難業務、地震、豪雨災害、火山噴火などの防災業務及び測量船による港湾等の測深、海流・潮流などの海洋観測業務や廃棄物の不法投棄や油排出などの監視取締り、漂着ゴミ分類調査等の環境業務があるとのことでした。また、この講演で知ることができたこととして、海上保安部は海の災害だけではなく山地災害の人命救助にもへりを出動さ

せているとのことでした。

「森は海の恋人」と言われているように、森林整備による森林資源の循環が海の資源の循環にもつながるものであり、今後ともお互いに情報交換を行い、連携していく考えです。

生産・造林の安全指導研修会を実施する

【宮崎南部森林管理署】9月13日、当署会議室において、生産・造林の請負事業体からの要請を受けて安全指導研修会を請負事業体9社、署担当者の総勢23名が参加し実施しました。

最初に、安達寛己宮崎南部森林管理署長から2種類の人物の顔の画像を掛けあわせた合成写真等を参加者に配付し、見方によって「アルベルト・アインシュタイン」に見えたり、「マリリン・モンロー」に見えたりするように安全確認についても色々



研修会にて挨拶する安達署長

な視点で確認することの重要性について説明がありました。

次に、類似災害を防止するため請負事業及び立木販売における災害の発生状況等やタニ刺咬予防対策の取り組みについて安全講義を行いました。

参加した請負事業体からは、労働災害の分析方法及び色々な視点で安全確認を行うことこの重要性について大変勉強になったとの声が寄せられました。

今回の安全指導研修会は、当

署で事業実行中の生産・造林関係の事業体が一緒になって計画してもらったところであり、主伐・再造林の確実な実施に向けた大きな一歩になりました。

熊本市西部地域森林整備協議会を開催する

【熊本森林管理署】9月20日熊本市国際交流会館において、熊本市西部地域森林整備協議会を熊本森林管理署、熊本県森林組

合連合、熊本市役所農業政策課、西農業振興課、上益城地域振興局（オプザバー）の関係者12名が参加し実施しました。

協議会では、役員を代表して藤崎岩男協議会会長（県森林組合連合会代表理事専務）が「協議会の目的である民有林と国有林が連携し森林整備に取り組みることが重要であり、さらに民国連携を強める必要がある。」との挨拶に始まり、規約の変更及び民有林・国有林担当者から平



汐崎 廣美 さん

退職し、実家に8年前に戻った。一人暮らしの母親を介護（現在要介護5）しながら、木工房を建て、豊かな田園生活を

「木を植える人間に」

夢見ていた。介護は大変であるがまわりの人に支えられ、感謝の気持ちへと変わってきた。Uターン後すぐに新燃岳の噴火に遭遇。夜中、何時間も家の建具が音をたてて揺れ、山を見ると真っ赤な火柱と稲妻が走り、文字通りの恐怖感を覚えた。県外の友人が遊びに来るとよく御鉢に登った。雄大な霧島山系が自慢であり、是非感動して欲しかったのである。そんな宮崎県高原町に住んでいる。

地域のイベントにはよく参加し、林野の案内にあった霧島山モンテフェスにも参加した。寒

い地方の樹木と思っていたミスナラ、ブナ、センが見られ満足している。9月のイベントでは、矢岳登山で念願のヤマグルマが見られそうだ。道管の無い広葉樹で以前から出会いたいと思っていた木である。

また、糖尿病のため、よく散歩をする。すると道路端の不明な木があると、つい調べてしまう。この前は凶鑑にネコノチチとあった。何歳になっても新しい知識はうれしいものである。

地元で特に感動したのが、林野庁職員OBの案内で、御池周辺の自然観察会だった。自宅か

成29年度の実績報告、平成30年度の事業計画の報告がなされ、質疑応答後に確認されました。最後に、事務局から平成32年度以降の協議会のあり方や国有



協議会の様子

林担当者から次期協定書の継続に係る話題提起がなされ、本年度から来年度にかけて協議等を行うことを確認しました。



質疑応答される方々

らこんな近くに、大噴火で出来た火口湖がある事自体、不思議で恐怖なのだがそこに豊かな森林は、天然林と思っていた。石碑があり、よく読むと1914年（大正3年）植樹とある。イチイガシ23000本、アカ

る人間に近づきたいと思うようになってきた。近年の自然災害に不安を抱きながら、木を植え、山を守ることが生きるための必要最小限の行為ではないかと思うこの頃である。

ガシ6190本、面積9町と。半端な数字ではない。何年もかけて植えたと思う。炭焼き小屋の跡もあり、ここは禿山だったかも知れない。風景がいつもと違って見えてきた。この年の事件を検索すると第一次世界大戦、シーメンス事件、桜島の大正大噴火、真幸地震とある。御鉢も活発に活動している。約100年前にこれだけの大植樹があったことを知り、自分も木を植え

介護が一段落したら、社会貢献もし、悔いのない人生を送るために、モニターに応募することにした。森林の現状を知り、関係を持ちたいと思ったからである。環境問題の映画を見ていたら、漁師が山に木を植える時代になっていた。最後にこの原稿を書いていたら、自分の思いが伝わったのか、育樹祭の案内が送られて来ていて、早速申し込むことにした。

（宮崎県高原町在住）

【お知らせ】 大村森林事務所が移転しました

8月1日、長崎森林管理署大村森林事務所が国土交通省長崎河川国道事務所大村維持出張所内に移転しました。

住所 〒866-0806

長崎県大村市宮の原

2丁目1664

電話 0957-557008

(FAX同)



庁舎玄関と大村森林事務所（左側）



大村維持出張所庁舎

人のうごき

【異動】10月1日付発令

治山課流域保全治山対策専門官

（近畿中国局広島署付）

山村晃弘【治山課流域保全治

山対策専門官】

林野庁森林整備部計画課

山口雄大【大隅地域技術官】

福岡署森林土木指導官

久保田利郎【森林整備課設計

指導官】

沖繩署地域統括森林官

中村勇次郎【沖繩署首席森林

官】

総務課給与係長

草野真一【総務課給与第一係

長】

森林整備課設計指導官

針持秀一【森林整備課路網整

備係長】

森林整備課路網整備係長

柿本一宏【宮崎南部署主任森

林整備官】

長崎署森林整備官

宮本一朗【長崎署森林官】

宮崎北部地域技術官

藤原洋太【鹿児島署】

宮崎南部署主任森林整備官

大石成人【宮崎北部署主任森

林整備官】

鹿児島署

平生貞成【関東局伊豆署】

北薩署主任森林整備官

遠坂洋志【大隅署主任森林整

備官】

大隅署主任森林整備官

米本龍正【北薩署主任森林整

備官】

【退職】9月30日付発令

佐藤太亮【総務課給与第二係

長】

お悔やみ申し上げます。

沼津 浩明 様

計画保全部保全課勤務、農林水産技官 沼津浩明様は、9月17日ご逝去されました。

(57歳)

都会の中の緑の森 多様な植物



131 トベラ (トベラ科)

葉の倒卵状長楕円形と、果実が割れて粘りのある赤褐色の種子が見えることが特徴です。常緑の雌雄異株の低木で、特に根の皮に一種の臭気があります。

葉は互生、枝の上部に密生し、表面は深緑色で厚く表面はやや光沢があります。両面無毛で葉の縁は全縁で下面へ巻き込んで

います。花は6月に頂生の集散花序を作って群がり咲き、白色から黄色に変化、芳香があります。果実は熟すと3裂し、赤い粘液が

付着した種子を多数露出します。赤い（毒々しい赤）粘液が付着した種子が割れた果実内にはつきり見えるので印象的です。粘着のある種子を鳥が食べて（無味無臭）、くちばしに粘着して鳥が運び、鳥散布で分布を広げます。

乾燥や潮風に強く、光沢のある濃い緑色の葉をつけることから、街路樹などに使われます。名前は節分にこれを扉にはさま、鬼を避ける風習があるので「トベラノ木」といい、転化した名



前です。（鬼が嫌うのは匂いと燃したときのパチパチの音の説あり）

みどりの散歩路

「ときめき」はこの世代でも忘れてはいけないよつである▼徐々に知名度をアップさせているテレビ番組に「チョコちゃんに叱られる!」というテレビ番組があります。5歳児の子供に扮した出題者が日常で考えた他愛もない素朴な疑問を大人に投げかけるといふユニークな番組▼「大人になるとあつという間に1年が過ぎるのはなぜ?」という質問に大人たちはタジタジ。答えは・「人生にときめきがなくなつたから。」生活の中にとときめきを感じる機会が多いか少ないかによって過ぎた時間の感じ方が違うとのこと▼子供たちと違って大人になると毎日同じ作業の繰り返しに感じられ、印象に残る出来事は少なく、ときめきやワクワクを忘れてしまつた大人たちの1年はあつという間に過ぎてしまうようです▼もうすぐ紅葉の秋。国有林ではいつでも国民の皆さまに「ときめき」を与えられるような森づくりを行っています。この機会にご友人、ご家族で「ときめき」を求めて森へお出掛けになってみてはいかがでしょうか。（た）